

研究報告 「舞踊上演教育のフロンティア」

講演

バングラデシュの舞踊劇と上演教育

沖縄県立芸術大学 ハッサン A. K. M ユスフ

序説

バングラデシュの伝統的演劇はもともと舞踊劇であり、演劇の中に舞踊、音楽が合わせて行われている。バングラデシュの文化では歌と舞踊が主要な位置にあったため、民俗演劇でも必然的にこれが中心となった。この演劇を舞踊的作品「Nrittattok probondho」と呼ぶ学者もいる。また、様々な舞踊劇の共通点を分析して演劇研究者はそれぞれを「パンチャリ」や「ボルノナットクナット」、または「コタナット」と呼んでいる。基本的にバングラデシュの舞踊劇は儀式的なパンチャリまたは世俗的なパンチャリという二つの形によって行われている。

ラシュリラ

「ラシュリラ」は古典舞踊「モニプリ」をもとにした演劇である。この舞踊劇で役者はクリシュノとラダの愛について主に音楽と歌詞によって踊る。この踊りはモニプリというインドの古典舞踊のスクーリング (schooling) によっているのである。

ラシュリラは大まかに次の要素から成る。

1. 舞踊的な動き
2. 叙情詩の台詞
3. 散文の台詞
4. 散文での話術的な演技

パラガン (Pala Gaan)

バングラデシュの東部で行われているパラガンという民俗演劇は世俗的芸能である。「ガエン」または「ボヤティー」と呼ばれる一人の役者がバングラ演劇の独特な演技方で全ての話演じることがパラガンの様式である。パラガンの演技の本質は基本的に次のとおりである。

1. 散文での話術的な演技：日常生活の話し方で物語を説明する。
2. 叙情での話術的な演技：歌・踊りの手振りや身振りでの役や状況を劇的に説明する。
3. 散文での台詞的演技：即席演技(improvisation)という方法でガエンとドハルが台詞を言う。ドハルは座ったままで話す、ガエンは立って衣裳に付けているサリーのような長い布の独特な使い方で、役になって話す。

古代の教育制度

モニプリの人々の文化環境では、踊りや歌など

という芸術的なものが宗教的行為そのものにあたる。インドの一般的な伝統と同じようにモニプリ民族の教育の伝統にもグル・シッショ「師匠と弟子」という教育制度がある。グルというのは芸能を教える人であるが、その芸能の全体を究め、新しい発見を出来る人であるとされる。

一般的に弟子の教育はおよそ6～7歳から始まり、グルによって5年から12年までも続くことがある。グルがその弟子に対して満足するまでこの教育を終わらせることができないというのがバングラデシュの伝統的な上演教育の伝承である。それはグルの家の芸として伝えられたものであるからであると言える。

パラガンの師匠はガエンと言い、独特な演技方をを襲名した役者であり、バングラデシュの民謡・民間説話・民俗舞踊そして語りをするのが上手な人である。このガエンの独特な演技方を習うために、パラガンのドハルとしてまず入門するのが一般的である。歌手として歌を習いながら師匠の演技を手伝うのはこの演技の基本的教育であると言える。異なった物語の歌を全て習った後で、動きの教育が始まる。この教育でも、師匠の家、また師匠が決めた場所で習わなければならない。パラガンの一般的な動き方を習った後、パラガン独特な演技方の教育が始まる。パラガンの演技というものはガエンからガエンに伝えられたものであり、師匠から弟子というふうにならびに中世から現在まで生きてきた伝統である。

近代の大学等の教育制度

20世紀以降、モニプリという舞踊はインドとバングラデシュの異なった場所で教えられているが、それはラシュリラという舞踊劇の演技ではなく、古典舞踊教育である。バングラデシュのモニプリ舞踊を見たロビンドロナットタクルと言う有名な詩人は、1926年に彼の大学の課程にモニプリ舞踊の教育を加えた。

パラガンの演技の教育は、現在バングラデシュの大学でも教えられているが、それは、グル・シッショと言う伝統的な教育制度と異なり、大学の課程によりフィールドワークという方法で民俗舞踊劇の資料を集め、演技の研究をするというものである。バングラデシュのジャハンギルナガル大学の課程では、毎年何度も様々な村でこのような舞踊劇の調査を行っている。そして、それらの様式性を分析し、バングラデシュの演劇の伝統的形式を取り返し、そして世界に紹介することがこのような教育の目的である。たとえば、パラガンやラシュリラだけではなく、バングラデシュの伝統的な演劇は、物語を語るということが特徴であるので、異なった伝統的演劇の演技から語りの方を分析し、学者の解釈によって新しい方法を教えるというのが大学の教育である。